

防犯 最新線

第5話 神明防犯パトロール隊



住宅地をパトロールするメンバーら＝10月、岩崎町新ラ田。同町と岩崎台では10月19日から20日にかけてナンバープレートが盗まれる部品ねらいが9件連続で発生し、注意を呼びかけている。

拍子木の音「抑止力」に 岩崎町全体への広がり期待

「戸締り用心、火の用心」10月に入ってもまだ蒸し暑さを感じる日曜の夜、そわいのベスト姿で岩崎町内の住宅地に防犯の声を響かせる。

設立した04年11月から12年間、活動は続く。6人のメンバーが毎週日曜に集まり、町内の神明地区一帯を練り歩く。拍子木の「カン、カン」という音が地域に安心をもたらす。約5、6キロの1時間コースには、車1台がやっと通れるほどの狭い道や上り坂、下り坂もあり、活動はさながらウォーキングのようだ。

隊長の吉野政勝さん(71)は「住宅が増え、景色が変わった。昔と比べてLEDの防犯灯や門灯も増えて明るくなったよ」と実感を込める。

地区では、およそ15年前から空き巣や車上狙いが相次ぎ、吉野さんら有志の呼び掛けで活動が始まった。1、2年前まで市の青パト車両に乗って、神明のほか、市場・町側・竹ノ山・梅ノ木など町内の全地域をくまなくパトロールした。犯罪に目を光らすだけでは

ない。活動が端を発して、人のつながりが芽生え、地元の神明社では9年前から「岩崎こども相撲大会」が始まった。数年前にパトロール中に認知症と思われる徘徊女性を保護して、家族のもとに帰す人助けをした。60代、70代の女性メンバーは「あいさつができる子どもが増えた」「見守りがいるんな助けにつながることは励みになる」と喜ぶ。

暑い日も寒い日も関係なく、活動は生活のリズムになっている。唯一の課題は担い手不足だ。年長者の中里通勇さん(79)は「皆さんと知り合えたことが財産。体力が限り張りたい」と責任感をにじませる。

吉野さんらは願う。「便利な反面、助けが必要な人がたくさんいる。防犯活動は健康づくりにもなるので、町全体に広がるとありがたいです。自分たちのまちは、やっぱり自分たちで守らなきゃね」

活動の参加申し込みと問い合わせは、吉野さん(0561・73・7963)。(広)

折戸区に県警本部長から感謝状

9月15日、県警本部が今年交通安全功労団体45団体に感謝状を贈り、そのなかで日進市から折戸区が初の受賞を果たしました。

同区では1998年から、役員20人を中心に、地区の各団体と協力して、街頭監視や登下校する児童の見守り活動に取り組んでいます。防災会や防犯クラブ、女性の会、子ども会などが関わるほか、多くの高

齢者が児童を熱心に見守るなど地域を挙げた長年の功績が評価されました。

星野和三区長らは同21日に市役所を訪れ、「行事をやるたびに皆さんが一生懸命参加してくださる。報告して励みにします」と喜びを語りました。

萩野幸三市長は「素晴らしい団結力を大切に、これからも地域を見守ってください」とたたえました。



萩野市長に喜びを報告する星野区長(中央)ら